

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	4 成績評価及び修了認定
中項目	
小項目	4.0.1 成績評価
要素	<p>①学修の成果に係る評価(以下、「成績評価」という。)が、学生の能力及び資質を正確に反映する客観的かつ厳正なものとして行われており、次に掲げるすべての基準を満たしていること。</p> <p>(1)成績評価の基準が設定され、かつ学生に周知されていること。</p> <p>(2)当該成績評価基準にしたがって成績評価が行われていることを確保するための措置がとられていること。</p> <p>(3)成績評価の結果が、必要な関連情報とともに学生に告知されていること。</p> <p>(4)期末試験を実施する場合は、実施方法についても適切な配慮がなされていること。</p> <p>②学生が在籍する会計大学院以外の機関における履修結果をもとに、当該会計大学院における単位を認定する場合は、当該会計大学院としての教育課程の一体性が損なわれていないこと、かつ厳正で客観的な成績評価が確保されていること。</p>
小項目	4.0.2 修了認定及びその要件
要素	<p>会計大学院の修了要件が、専門職大学院設置基準の定めを満たすものであること。この場合において、次に掲げる取扱いをすることができる。</p> <p>ア 教育上有益であるとの観点から、他の大学院において(他専攻を含む)履修した授業科目について修得した単位を、各会計大学院が修了要件として定める30単位以上の単位数の二分の一を超えない範囲で、当該会計大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこと。</p> <p>イ 教育上有益であるとの観点から、当該会計大学入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、アによる単位と合わせて各会計大学院が修了要件として定める30単位以上の単位数の二分の一を超えない範囲で、当該会計大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすこと。</p>

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. GPA分布について、クラスおよび科目間で隔たりがある場合にはその理由を明確にする。	→GPA分布(クラス別平均GPA)	D	C	C	C	C
2. 修了生の質保証のために、過去の修了生の個人別平均GPAを検討するなどして、一定水準以上のGPAを修了要件にするなどの措置を検討する。	→個人別平均GPA	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか GPA分布について、クラスおよび科目間で隔たりがなくなるように専攻会議で数度、指導が行われた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 成績評価の基準にしたがって評価し、GPA分布の妥当性の担保を図っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か GPA分布を概観し、特異なものに関して、その妥当性を確認する。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 修了要件にGPAを活用することを研究課題としていきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 近年の入学人数を踏まえた入学状況のもとでは、喫緊の解決すべき課題とはなっていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 課題の1つと位置づけ、解決の方策を検討する。	☆
		その他	☆
備考			☆